

Passion & Mission

自分のためより、誰かのために頑張るほうが人は幸せになれるかもしれない

行政の使命は愛と情熱で
住民一人一人の幸せをつくること
板倉町長 栗原 実

Mayor Interview Minoru Kuribara

昭和30年2月1日、新しく板倉町となってから、ちょうど60年となります。人生でいう還暦を迎えたわけです。この間の町の変遷は本誌でまとめさせていただきましたように、時の流れに沿って発展してきました。その節目節目には、人あり、時代の流れあり、決断あり、努力あり、協力ありの総合力で対応されたからこそと思います。この60周年記念事業展開にも、各関係者の判断、検討、実行、協力をいただいております、感謝を申し上げます。

私事ですが、私は66歳になりました。60年前をかすかに思い出してみますと、母屋はかやぶき屋根、台所は土間、各部屋に裸電球が一つ、風呂も炊事も薪やモミガラが燃料、ラジオが一つ、農耕用の牛が一头、自転車にリヤカー、隣家との間は防風林や竹藪で夜は真っ暗。前橋古河線は砂利道、東武の路線バスが何本か通っているくらい。学校の給食は味噌汁と脱脂粉乳。土日は紙芝居で赤大根や水飴を食べるのが楽しみでした。その後、自家水道、白黒テレビ、手絞りの洗濯機、ガス、50ccのバイク、小型耕運機等々、時代の流れが次々と思い出されます。

そして一気に近代化が進み、自動車、住居、家電、トイレ、風呂、生活用具、食料品、万一の保険類等まで充実しました。現在は高速で繋がれた鉄道や道路網、カラーテレビ、自動車は一人一台、エアコン、一人一部屋、LED、太陽光発電のエコハウス、食べ物も全て揃って好きなものを食べ放題。この間せいぜい40年くらいの急速な発展であ

ります。30年前のタイムカプセルに投函されたかたがたが、今日をどの位の精度で予測されたのか、大きな興味を覚えます。試験的に宇宙旅行が出来、水素で自動車が走り、高い精度が要求される作業ほどロボットが活躍。更にはコンピュータを駆使すれば、可能性や選択肢が無限に広がる時代を迎えようとしています。その反面、我が国では、基礎を支える経済の発展が人口問題一つで崩れ去る可能性も指摘されています。

温暖化、自然破壊、異常気象、貧富拡大、地方消滅等々の危機を表す言葉を聞く度に、発展と衰退を併せ持つ現状に、今までのような良いことづくめはないかもしれないと思いつつ、まずは、計画的な発展と危機を感じる一つ一つの事柄にしっかり対応すべきと考えています。板倉町をより良くするために、いっしょに頑張りましょう。

